

J F Eグループインベスターズ ミーティング  
（2019年度第2四半期決算および2019年度業績見通し）  
2019年11月12日開催 質疑要旨

---

**Q. 数量構成による減益要因が従来よりも大きめに出ているのは、国内の自動車向けの数量減、輸出の増加等による構成悪化の影響なのか。**

A. 前回見通し比で数量構成▲300億円であり、数量減100万トに対して従来よりも損益影響が大きいのは、構成悪化を含むためである。構成悪化の主な要因は、国内は建築向けが減少していること、輸出は自動車向けが減少していることによる。

**Q. 鉄鋼事業の単独経常利益は17年度、18年度の黒字に対して、今年度は赤字になると推察するが、減損の兆候はないのか。**

A. 今年度の鉄鋼事業の単独経常利益は赤字の見込みである。減損については四半期ごとに会計士と確認しており、現時点では減損の兆候に該当していない。ただし、19年度は単独の営業利益が赤字の見通しであることから、来年度以降の見込み次第では減損の兆候に該当する可能性がある。その場合、減損を行うか否かは将来の収益想定に基づいて評価していくことになる。

**Q. 19年度見通し（前年同期比）の「その他▲383億円」の内容を教えてください。**

A. Gr会社収益悪化の約▲200億円、基盤整備による償却費増の約▲100億円が中心である。海外Gr会社を中心に一定の利益水準を確保しているが、昨年度が良かったため前年度比では減益となる影響が大きい。

**Q. 19上から19下にかけてのスプレッド悪化▲140億円の国内と輸出別の織り込みの考え方を教えてください。**

A. 国内については、スプレッドは改善方向だが、輸出は価格の下落によりスプレッド悪化を見込んでいる。

**Q. 生産調整を継続するか否かを判断する基準はどのようなものかを考えているか（例えば薄板三品在庫のレベル感等）を教えてください。**

A. 今後の生産見通しについては市場の在庫状況で判断するというよりは、オーダーのレベル感、及びスプレッドや価格の回復状況を見ながら機動的に対応していく。

**Q. 倉敷第4高炉改修について、炉容積が現状に対して大きく増加しない一方で投資額が大きい理由を教えてください。**

A. 投資金額が従来の改修と比較しても大きくなっている要因は、土木工事費や人件費などの費用が増えていることが影響している。また、これを機会にセンサーの導入をはじめとしたIoTやAIの活用を進めるなど、従来以上の機能を付加することを含め、投資金額が大きくなっている。

**Q. 今年度の設備投資が4,000億円を超える計画であるが、投資額が大きい要因を教えてください。**

A. 今年度の4,100億円の設備投資は工事ベースである。今年度は福山コークス炉、福山焼結機、京浜発電所など、大型案件の立ち上げが多いため工事ベースでの金額が大きい。

**Q. 生産調整による数量減100万ト（前回見通し比）は単に国内の需要減への対応のみならず、在庫調整に踏み込んだものなのか。**

A. 100万トの数量減は国内の在庫水準への対応も含まれているが、海外市況悪化に伴うスプレッドの縮小による影響のほうが大きい。

**Q. 対前年度+500億円のコスト削減の実現性について教えてください。100万ト減産（前回見通し比）による効果金額への影響はないのか。**

A. 先ほども回答したとおり、今年度は大型投資案件の投資効果発現が大きい。また、対前年度では昨年度の操業トラブルによる一過性のマイナスの解消もあり、+500億円を見込んでいる。粗鋼生産量減によりコスト削減効果の目減りも幾ばくかあるが、前回見通し比▲100億円の主たる要因は台風影響や小トラブル累積による補修費増である。主な大型投資案件の投資効果については計画通り実現すると見込んでいる。

**Q. 19年度下期は輸出比率が縮小されるのか。**

A. 輸出比率については厳密には回答できないが、数量減100万ト（前回見通し比）は輸出への影響が大きい。

**Q. 生産調整による100万トの数量減（前回見通し比）は、需給改善を狙いとしたものなのか、足元のスプレッド水準では限界利益をカバーすることが難しいからなのか。生産調整の背景を教えてください。**

A. 国内における需給調整と、海外の低迷するスプレッド水準の両面を踏まえ100万トの減産を織り込んだ。

**Q. 来年度以降の業績改善に向けた施策について教えてほしい。**

A. 足下で取り組むべき施策として鉄鋼事業における設備投資の圧縮や固定費の削減を実行する。より中長期の視点にたった取り組みについては、足下低迷する海外のスプレッド水準が今後どの程度続くかといった事業環境を見極めつつ検討していく。

**Q. 今年度および来年度のフリーキャッシュフローの水準はどの程度か教えてほしい。**

A. 今年度のキャッシュフローについては資料の 50 ページにお示ししている通りマイナスである。来年度については現時点で見通しはないが、今回お示ししているキャッシュフロー対策の実現も含め、収支が均衡する水準を目指していかなければならないと考えている。

**Q. IMO の SO<sub>x</sub> 規制の影響は業績見通しにどの程度織り込まれているのか教えてほしい。**

A. IMO の SO<sub>x</sub> 規制への対応として、当面は適合油の使用を想定しており今年度の業績見通しについても一定程度その影響を織り込んでいる。

**Q. 足下の中国・東南アジア市場で\$200 を下回るメタルスプレッドが継続している背景をどう考えているか教えてほしい。中国が近年生産能力の削減を行ってきたにもかかわらず需給がそれほど改善していないということなのか。インドミルやロシアミルの攻勢の影響なのか。**

A. 中国については、粗鋼生産が増加している一方で輸出は低位継続していることから、増産分は中国内需で消費されていると考えている。足元の東南アジアのスプレッド水準が低迷している要因としては、インド材の影響が大きいと考えている。インドの国内経済の停滞を背景にインド材が東南アジアへ流入していることが市況に影響していると考えている。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。